愛知民医連と医学部進学を目指す高校生・受験生をむすぶ情報誌

Iris

Vol.35
夏号
2022

協立総合病院研修医１年目のみなさん

トピックス

- Aim to Doctor …… P 2
- 医師として大切にしていること … P 3

医師からのメッセージ

協立総合病院　初期研修医１年目　小西 正晃

Irisをご覧になっている皆様、こんにちは。協立総合病院研修医1年目の小西正晃と申します。少しでもみなさんの受験へのモチベーションアップになればと思い、書かせていただきます。

医師を目指したきっかけは、高校時代、現代文の教科書に載っていた加藤周一さん著「文学の仕事」という論説文に感化されたことが大きな理由です。当時、東日本大震災の爪痕が癒え切っていない時勢で育ち、自分のやるべき事が何なのか、なにを為すべきなのか、その答えを見つけねばと何となく思いながら高校時代を過ごしていました。そんな中で国語の授業中に「文学の仕事」に出会いました。そこでは、「科学技術や理知的な考えだけでは人生の目的を決定できず、むしろ理性や知識、正論や常識から最も離れた情熱こそが人生の目的を与えてくれる」と、説かれています。孔子が重荷を背負う一頭の牛を助ける故事や、偶然会った難民の子を身の危険を冒してまで救う話について紹介されており、いずれも単純な「何か・誰かを救いたい」という情熱からはじまる物語です。社会や世界を変えるには、そうした情熱で歩みだすほかありません。その情熱を与える役割こそが、文学の仕事です。私はこれを学び、ひとりの人間に最大の介入をできる医師を志すようになりました。

医師を目指すうえで高校時代にしておいたほうが良いことは、「まずは勉強」と言いたいですが、たぶんこれを読んでいる人はおそらく言われなくてもやっていますね（笑）。ただ言える事は、医師になる前に多くの小説や漫画、映画などに触れて感動することが必要だと思います。多くのドラマを見て、生と死、男と女、個人と社会、様々なテーマについて考え、味わうことで人間としての“深み”を増やしてください。

コロナもあり、なにかと不自由な日々が続くと思いますが、報われる日を信じて頑張りましょう！

Aim to Doctor

広島大学医学部医学科3年　上村 匡弘

医師　志望動機

親戚に医療関係の人がいたわけではないのですが、中学の同級生で医師を目指している人がちょくちょくいたのでぼんやりと自分もなれたらいいなと思っていました。高校生になりいざ文理選択をする際に、理系を希望していたのですが自分は理系科目が得意ではなかったため、先生に文系を薦められました。これが将来の仕事についてよく考える良い機会になりました。文系に進むのであれば最高峰である東京大学を目標にしよう、ということで親が東京に連れていってくれ、東京大学や霞ヶ関などを実際に見てまわりました。そこで企業に勤める自分を重ねて想像してみたところ、自分は、働く上で自分の働きが誰のためになっているのか、というやりがいを身近に感じられる仕事が自分に合っていると思い、以前から興味があった医師となって目の前の患者さんのために一生懸命に動ける人になる、と決意しました。勉強に関しては高1の時点での苦手科目は残り2年あれば十分に克服できるため、徹底的に基礎を固めることで理系科目の苦手意識をなくしました。

大学生活

自分は入学する年にコロナが全国的に流行り始めたため前期はガイダンスで一度キャンパスに訪れたのみで残りはずっとオンラインでした。部活動の勧誘は後期から始まり、秋頃に硬式テニス部に入りました。活動は大学の制限がなかなか解除されず、1年生の間はあまり活動しませんでしたが、2年生以降は徐々に活動できるようになりました。県外の大学に進学したため、知り合いは誰もいない状態からのスタートでしたが、部活に入ることで同級生との関わりができ、無事友達も作ることができました。勉強の忙しさについては、大学にもよりますが自分の大学は厳しくない方で同級生も部活に励んだり、バイトを複数掛け持ちしたりなど、勉強と両立している人がほとんどという印象なので、自分のしたいことはきちんと時間を取ることができると思います。

受験生へのエール

受験勉強をしている間はしたいことを我慢して勉強をしなければいけませんが、受験が終わった途端に時間がたくさんできます。そのためやりたいことは紙などに書き留めておくと、励みになります。勉強は大変かもしれないのですが、試験までに何を終わらせないといけないのかを問題集の単元ごとに書き出してみると想像よりも多いことに気が付き、めんどくさいと思う暇もないことが分かります。勉強する、と意気込むのではなく今日のノルマをこなそうとゲーム感覚ですると習慣化もでき、気楽に受験期間を終えられると思います。続けられる範囲で頑張ってください!

医師として大切にしていること
「真心を持って事に当たること」

千秋病院　内科　川本 竜太郎

私は一宮市にある千秋病院で総合診療科の専門医研修をしていて、現在は内科の入院診療を行いながら週に1回の外来診察、また訪問診療をしています。プライベートでは「プロフェッショナル」や「情熱大陸」をみて、かっこいいなぁ～と思っている普通のテレビ大好きな人間です。

医師の仕事は学生の皆さんからよく質問されるとおり、それなりに忙しいです。常に頭のどこかで「医師として大切にしていること」を意識していることは難しく、日々の診療に勤しみ、気づいたら一日が終わっています。

ですが、今回若い皆さんにメッセージを書くことになり、大切にしていることを改めて考える、いいきっかけになりました。

私が医師として大切にしていることは、〈真心を持って患者さんと接する〉ということです。でもそれは決して大層なことではなく、皆さんの日常と同じです。横で困っている友人がいたら声をかける、妊婦さんに電車で席を譲る、高齢者の方の買い物袋を持ってあげるといったことの延長だと思っています。

患者さんはせっかく自分を頼りにして来てくれていますので、持っている知識と技量を使って、何とか手助けしようとあれこれ考えたり勉強したりします。でも全知全能の神様にはなれません。よって他の診療科の医師に協力していただいたり、他の専門スタッフの知恵をもらったりして、みんなで協力して患者さんに対して最善を尽くそうとしています。

医師は、好きでやっていないと結構しんどい仕事ですが、誰かのために頑張ること、真心を持って人と接することができる人ならできると思います。

今医師を目指している人は、ぜひ夢をかなえて人を助け、自分も幸せになってください。

最後に、学生時代には色々な世界を見て、多くの人たちの価値観に触れる機会をたくさん持ってほしいと思います。皆さんの夢が叶うように応援しています。

このドクター漫画がおススメ!!

医師／棚橋　千里
総合病院南生協病院
病理医
名市大93年卒

フラジャイル（22巻）再度の紹介

今回は、数年前の発刊当時に紹介した病理医マンガ「フラジャイル」を再び取り上げます。

22巻は、新米病理医だった女性医師・宮崎智尋先生が、みごと病理専門医の試験に合格した記念すべき巻だからです!

愛すべきわが職業“病理医”とは、臨床医が採取した患者さんの検体を顕微鏡でみて、病気を診断するお仕事です。この漫画の主人公は、優秀だけど偏屈で不愛想な病理医・岸京一郎。そんな指導医のもとで、あるときはパワハラもどき、あるときは放置・・・という過酷な環境にさらされながら、要領はわるいけど熱意があってまっすぐな宮崎先生、ほんとによく頑張りました。病理のかくれた魅力にも、岸先生のかくれた情熱にも、宮崎先生は気が付いていたんですね。そして、大学教授でやくざの親分みたいな病理医、独特の存在感のある女性ベテラン病理医、などなど、現実に負けず劣らず（どちらかというと現実の勝利）の個性的な病理医がたくさん出てくるのもこの漫画のおもしろさです。

病理医は全国に2000人弱、医師の1%未満しかおらず、希少価値はあるけれど絶滅危惧種でもあり、慢性的に人手不足な職種です。病理専門医資格は、3年間の病理研修で、たくさんの病理解剖や組織診断をしなければ受けられません。年1回行われる試験は、標本を実際に見て診断するスタイルなので、教科書の勉強だけでは絶対に合格できません。面接も行われます。毎年100名くらい受けて、60人くらいしか受からない、そこそこの難関です。

この漫画の発刊当時、病理学会では作者のサイン会が行われるなど、学会挙げての大さわぎでしたが、こんなマイナーな病理医を描いた漫画が20巻を超える大作になるとは、病理医のだれも想像しておりませんでした。

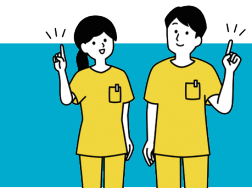
「読んでみたいけど、20巻以上あると買えないから読めない、、、」というみなさん。まずは医学部に合格してください。そして、その大学の病理学講座へ行けば、まず間違いなくこの漫画は全巻そろっているはずです。それを読みに病理教室へ毎日通ってください。もれなく、そのままあなたも病理医になれます!

雑誌名変更のお知らせ

本誌はより多くの医学部受験をされる方に読んでいただくことを目指して、今回2022年夏号（Vol.35）より、以下の通りにタイトルを変更することとなりました。

旧：高校生通信（～2022年冬号　Vol.34）　→　新：Iris（2022年夏号　Vol.35～）

『Iris』は、愛知県の県花である「カキツバタ（Iris laevigata）」より付けました。
また、カキツバタの花言葉は「幸運は必ず訪れる」であり、医学部進学に向かって頑張っている皆様の幸運を願いながら、新しい「Iris」をお届けしたいと思っています。
今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



医学部進学を目指す
高校生・受験生企画

＼コロナ感染拡大後初　対面での医療体験開催!!／

春の医療体験

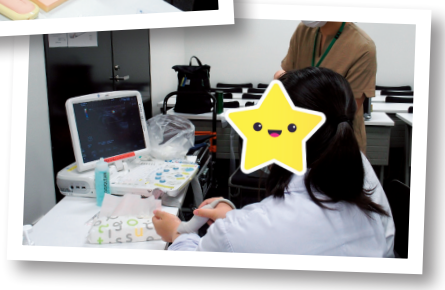
愛知民医連では5月14日（土）、医学部進学を目指す高校生・受験生対象に『春の医療体験』をウインクあいちにて開催しました。

今企画には、多くの方から申込がありましたが、密を避けるため19名の方に当日参加してもらいました。

内容は、「縫合体験」「エコー体験」「CPR（心肺蘇生）」「バイタルチェック」「医師交流」で、5つを70分間で体験してもらいました。

参加した方からは、「実際に手術で使う道具を使って縫合の体験ができたことが一番印象に残っている。普段見たり使ったりすることはないので貴重な経験になりました。」「先生の話を実際に対面して聞けたことがよかった。質問に丁寧に答えていただいて感動しました。」など大好評でした。

コロナウイルス感染予防のため、院内での医師体験実施は難しい状況ですが、医師としてのやりがいにふれ、医療の現場を実際に体験し、明確な目標を持って受験勉強に頑張れるように今後も「医療体験」の機会を提供していきたいと思います。



奨学生になって、一緒に医療のこと社会のこと学びあいませんか?!　愛知民医連奨学金制度のご案内

対象：医学部医学科生（医師をめざす方）

将来、地域に根ざし患者さんの立場にたった良い医療を私たち民医連とともにめざし、担っていく意思のある医学生さんを対象に愛知民医連は奨学金制度を準備しております。

奨学生になると

医学生同士の全国的な交流や学びの場を持つことができます。

充実した学生生活のために、
愛知民医連奨学金制度をお勧めします。

ご案内

Irisの感想を送って

図書カードをもらっちゃおう♪

IrisVol.35夏号、いかがでしたでしょうか？
よりよい紙面作成のため、感想をお寄せください。
感想文を送ってくださった方に、図書カードをお送りいたします。

（応募者多数の場合は抽選になります。）締め切り：2022年8月31日

応募は携帯・パソコン どれからでも可能です。

QRコードか、下記のURLからアクセスをお待ちしております。
https://00m.in/0SpjJ

地域に根ざし患者さんの立場にたった良い医療をめざして
愛知県民主医療機関連合会（愛知民医連）
協立総合病院・総合病院南生協病院・北病院・名南病院・千秋病院

事務局：〒456-0006
名古屋市熱田区沢下町9-3 労働会館 本館3F
TEL　：0120-193-666（フリーダイヤル）
052-883-6997（代表）
FAX　：052-889-2112
Email：aichiminiren@aichiminiren.jp
URL　：http://aichiminiren.jp/

一日医師体験・奨学金のお問い合わせ・お申込みは 医学生担当まで